

音声にもありますが、支払いは組合員にわかるようにお金の流れを明らかにしなければいけないという事を前副理事長の小山悟様が申しておりますが、「法外の値段ではないだろ」と威圧的に吉田耕作が詰め寄っている音声が確認できます。

「支払状況はわからないから良いんだ」と堀口が申しております。そのようなことを明らかにしようとする前副理事長の小山様に対して脅かしとされる発言です。「新井と同じ孤立無援にしてやる」と言わんばかりの威圧的な態度でございます。組合の財産は総有財産であります。財産の情報開示及び金銭の支払いの透明性は確保するのが普通だと思います。

不透明のままが良いのであれば役員3人だけで何でもアリでございます。今回は組合内の各組合員の、出資状況のファイルと涉外手当、及び積算手当の支払い帳（仕切り帳）のファイルをお送りいたします。

前にも申しましたが、一昨年の12月にお亡くなりになった前組合事務員の片岡様が私に対して「この状況を新井さんにわかっていてもらえなければ死ねない」と申されて、自分に渡していただいた支払い帳です。この金額は支払った前会計の吉田耕作と前理事長の堀口正行と前事務員のみでございます総会で質問したところ他の組合員は御存じないという事でした。

本来支払金額は組合員全員が知らなければならぬものだと確信していますが、自分の勘違いでしょうか？社員なら社長の給料は知らなくてもいいかもしれません。その辺の事を追及すると、堀口と吉田に「新井と同じになるよ」と脅かされるのを恐れ発言できないのです。

当方が質問しただけでも「やっていられない」と憤慨しておりました。やっていられないなら即座に理事長なんて辞めていれば今のような事態になつていなか事だと思います。大人であるしかも経営者15人の前でこの様な発言をするのは第三者が客観的に判断していかがでしょうか？

当方の行政書士様に聴いて頂いたところ「新井さんには失礼ですがあまりにも次元が低すぎますね」真面目な顔で言われてしまいました。当然私自身も次元の低い組合員で自負しております。「そんなに組合にいつまでもいないで辞めればいい」と第三者は思うかもしれません、辞めると思うつぼだと思うと、悔しさだけなので当方としての意地だけでございます。